

西光寺だより

第二十八号 平成二四年十二月一日発行

二〇一二年も終わりの月となりました。年の瀬になると月日が経つのは本当に早いなど毎年改めて感じます。

子供の頃、お正月が待ち遠しかった記憶がありますが、あの頃は一年がとて長く感じたものです。同じ時間でありながら、年を重ねるごとに早く過ぎ去るように感じるのは、不思議ですね。そして、この感じ方は日本人だけではなく、他の国々においても共通の感じ方だそうです。

その日いちには変わらず過ごしているような気がしても、確実に時間は過ぎ、一日、一日の積み重ねによつて今のわたしたち、今の世界をつくっているのでしょうか。そうなればやはり、今日を大切に過ごす、世の中を形づくっていくのですね。

「来年はどんな年にしたいですか？」

こう聞かれて、きつと誰しもが幸せでありたいと願うことでしょうか。思い描く形は違えども、幸せでありたいという思いは、今も昔も変わらない願いでありましょう。にもかかわらず、苦しみや悲しみは絶えることがありません。一日ですら思うようにはいかないものです。

積尊は伝えておられます。「諸行無常 諸法無我」

形あるものはすべて移りかわり、「私なもの」などひとつもない。そのことを知っておくことが、苦しみを遠ざけ、安らぎにいたる道だよと。

すべてのものごとは常に変化し続けているという真理を忘れてしまふ自分を反省し、そんな中でも今年一年出逢えたすべての皆様方のご縁に感謝いたします。いただいた命に、今日ある命に、すべてのご縁に心よりありがとうございます。



積尊が入滅されたクシーナガルの地

クシーナガルに着いたブッダは、2本の沙羅双樹の林において入滅されたといわれる。その際、弟子のアーナンダに「アーナンダよ。悲しむな。嘆くな。私は、あらかじめのように説いたではないか。すべて愛するもの、好むものから別れ、離れ、異なるに至るということをおよそ、生じ、存在し、つくられ、破壊さるべきものであるのに、それが破壊しないようにということが、どうしてありえようか。」と言われたとされる。

◆十二月・一月の行事◆

・十二月三日（月）・四日（火）

茨木東組念仏奉仕団

京都西本願寺

・十二月三十一日（月）

除夜会

午後十一時五十分より鐘つき

・一月一日（火）

元旦会法要

午前十時 西光寺本堂

● 今月のことば ●

◎ご存じですか? 『単位おもしろ話』

一、十、百、千、万、億、兆まではたぶんご存じだと思いますが、さらに大きくなると何というのでしょうか。

一、十、百、千、万、億、兆(ちよう)、京(けい)、垓(がい)、秭(し)、穰(じよう)、溝(こう)、澗(かん)、正(せい)、載(さい)、極(ごく)、恒河沙(ごうがしや)、阿僧祇(あそぎ)、那由他(なゆた)、不可思議(ふかしぎ)、無量大数(むりようたいすう)・・・計二十一単位となります。また恒河沙の「恒河」はガンジス河を意味する梵語を音訳したものであり、すなわち、「恒河沙」とはガンジス河にある無数の砂の意味であり、もともと無限の数量の例えとして仏典で用いられていたものであります。ちなみに無量大数は1の後に0を68個つけます。

それでは逆に『小数点以下』はどうなっているかご存じですか。分(ぶ)、厘(りん)、毛(もう)、まではわかるとはいますが、さらに続けていきますと・・・

糸(し)、忽(こつ)、微(び)、纖(せん)、沙(しや)、塵(じん)、埃(あい)、渺(びよう)、漠(ぼく)、模糊(もこ)、逡巡(しゆんじゆん)、須臾(しゆゆ)、瞬息(しゆんそく)、弹指(だんし)、刹那(せつな)、六徳(りつとく)、虚空(こくう)、清浄(しようじよう)、阿頼耶(あらや)、阿摩羅(あまら)、涅槃寂静(ねはんじやくじよう)・・・計二十四単位となります。ちなみに一秒の75分の1が1刹那になるようです。

これらは、江戸時代の数学者 吉田光由の『塵劫記』にあり、中国の『算法統宗』という数学書をヒントに執筆されたものであります。大きい・小さい単位、数えきれない・はかり知れないものを表わすのに仏教の用語がもとなっていてのが数多く存在するのですね。

♪ お知らせ ♪

①先月十一月十四日に茨木東組総代会研修会があり、茨木東組の八人の僧侶と二十二人の各寺院の総代とともに兵庫方面に日帰り研修会にお二人の総代と参加致しました。天気は良かったのですが、少し風が冷たい気候でした。

加古川市にある鶴林寺新宝物館・開館記念特別展に参拝・見学に行きました。聖徳太子開基伝承をもつ国宝の本堂や太子堂など、歴史を感じながらのひと時を味わうことができました。また姫路城内の好古園の素晴らしいお庭を巡りながら季節を感じることもできました。

それぞれの門徒総代の方との交流を新たな出会いと感じながらの間でした。総代の方々お疲れ様でした。

②十一月二十三日(祝・金)に西光寺報恩講をお勤め致しました。およそ四〇名のご門徒の方々、ようこそのお参りありがとうございました。夜七時の正信偈も若手の方々と共に声高らかに勤めさせていただきました。御講師の和氣秀剛先生のお話も優しい口調と分かりやすいお話をして頂きましてありがとうございます。今年最後の西光寺での大きな法要を皆様とともに迎えられること感謝しております。そして前日の準備・お茶接待・法要終了後の後片付け等、西光寺講の役員の皆様・婦人会の皆様、ありがとうございます。そしてお疲れ様でした。最後に西光寺のためにご尽力頂いたすべての門信徒の皆様、この一年間本当にありがとうございます。

来年もどうぞよろしくお願ひ致します。

合 掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>